

令和4年度 第3回地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員会  
議事要旨

日時：令和4年12月16日（金）9：45～12：00

場所：中央合同庁舎8号館5階 共用D会議室

## 1. 議事

### (1) 計画作成支援事業：地方公共団体Aの審議

- ・事務局より、書面評価の結果について説明があった。
- ・地方公共団体Aから事業説明があり、その後、委員による質疑応答が行われた。
- ・質疑応答の後、審議が行われた。委員から、以下のコメントがあった。
- ・今後、計画の作り直しをして支援してくとしたら、大学の特徴・技術力、それからどれくらい貢献できるのかという部分についてしっかりとベンチマークも含め示してもらいたい。
- ・自治体の積極的な参加が不完全と感じたので、その辺りを支援すべきではないか。
- ・人材育成に関しては社会的ニーズもあり若い人たちの興味も持てる場所なので期待をしたい。
- ・研究領域も広く、それぞれの研究テーマの時間軸に統一感がない。
- ・テーマの研究開発は大学だけでは出来ないと思うので、色々な所が関わるよう、もっと広めていかないといけないのではないか。また、タイムスケジュールも必要ではないか。
- ・やりたいことはわかり、期待もしたいと考えるが、これが本当に社会実装に向けて、あるいは地域を興すという点で整合性がとれていないのではないか。
- ・研究開発が独立しているのではないか。社会実装に向けての物作りと連携する姿勢を見せてほしい。
- ・参加する企業がコミットする様子が見えたが、様々な利害関係者が関わるため、強力なリーダーシップが必要ではないか。
- ・地方公共団体Aの経済を強くすることは、地方創生政策が掲げる「東京一極集中是正」の中で、重要な意味を持つのではないか。広域の地域圏で進めてほしい。
- ・大学の研究開発が新しいビジネスとして社会実装につながるか不透明であり、地域創生の話が前面に出てこないで交付金での支援は厳しいのではないか。

以上の議論を踏まえ、地方公共団体Aの申請は、計画作成支援を実施することに決定した。

### (2) 本申請：地方公共団体Bの審議

- ・事務局より、書面評価の結果について説明があった。
- ・説明の後、現地評価に進むかどうかに関する意見交換が行われた。

- ・地域外の大学とも連携しているとのことだが、なぜ地域内の大学を積極的に入れないのかという点が気になる。また、ベンチマークについて、しっかりやってもらいたい。
- ・全体的に強みというものが足りない。類似技術、研究の独自性、あるいは大学改革に関してきめ細かさが必要ではないか。特に大学改革については改革のビジョンが少し弱い。
- ・この地域に根付き、地域産業の雇用を安定させるという意図がこの事業の趣旨にマッチしている。
- ・地域産業が限られているので、地域の活性化という観点からは少し努力が必要ではないか。大学だけではなく、もっと地域の様々なプレイヤーが協力して地域を盛り立てるべきではないか。
- ・誰が主体になってまとめるのかがよく見えない取組があった。また、研究開発技術の応用先開拓が重要なポイントだと思うが、その部分があまり考えられてない。
- ・今回のプロジェクトで大学自体がどう変化するかという点でまだ説明が足りない。同じ地域内の大学と連携してプロジェクトを進めてはどうか。
- ・大学の規模や他大学との連携の状況から、事業の波及効果はおそらく極めてローカルになるのではないか。

### (3) 本申請：地方公共団体Cの審議

- ・事務局より、書面評価の結果について説明があった。
- ・説明の後、現地評価に進むかどうかに関する意見交換が行われた。
  - ・人材目標については、数値目標を含めて明確化する必要があるのではないか。
  - ・かなり期待感のある分野であり、申請書類からも意欲的であることが伝わった。
  - ・学内の学生定員の調整において、かなり身を切って真剣に取り組む姿勢として伺える。
  - ・新しい学習過程は加えられているが、大学全体として改革の将来構想を聞いてみたい。
  - ・テーマの産業の拠点を支えるような人材育成に関して大学が使命感を持っており、自治体もそれに対して大きな期待を持っている。

### (4) 本申請：地方公共団体Dの審議

- ・事務局より、書面評価の結果について説明があった。
- ・説明の後、現地評価に進むかどうかに関する意見交換が行われた。
  - ・地方公共団体Dのような取組は国内様々なところで始まっており、地域としての特色・優位性、他の地域との差別化、あるいは連携をもう少し詳細にすべきではないか。
  - ・特に新規技術、デジタル活用に関して説得力を感じた。
  - ・産業集積のメリットを生かしきれていない部分を大学中心に変えうるのかというところを確認すべきではないか。
  - ・これまで企業間連携がなかったところに、大学が関われば何か連携ができるという内容だが、このプロジェクトで全体がまとまるか分からない。また、自治体のコミットメン

トが弱い。

- ・今回のプロジェクトに関しては、大学本体の姿があまり見えず、研究所単独の事業と捉えられる。
- ・テーマの産業に関しての大学の本気度が示されていない。また、参画する地方公共団体間でどれぐらい連携できているのかが不明確ではないか。

以上の議論を踏まえ、地方公共団体B、C、Dについて、現地評価へ進むことに決定した。

#### **(5) 展開枠の採択結果報告**

- ・事務局から資料を用いて結果の報告があった。

以上